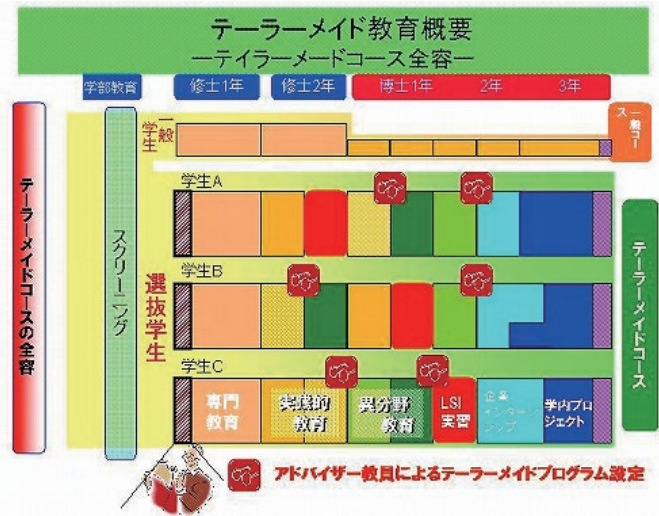


Chapter 04

社会の要請に対応する学際的教育推進 - 本学の強みを生かした企業と協働した  
 テーラーメイド・バトンゾーン教育プラン -  
 (平成21年度特別教育研究経費(教育改革)) / 副学長(研究担当) 石田 誠

【目的】

IT 技術やナノテクノロジーなどの先端技術を使ったモノ作り教育研究を中核としたテーラーメイド・バトンゾーン型教育システムを構築し、産業界が求めるグローバルな競争力の源泉となる実践的・創造的能力を備えた人材(博士課程学生)を輩出して、21世紀のイノベーション社会の基盤構築に貢献します。そのために、従来からのカリキュラム以外に、学生分野、進度に合わせたカリキュラム(テーラーメイド: 図1)で、しかも企業との協働をより強くした実施カリキュラム(バトンゾーン: 図2)を実施するもので、修士から博士課程の5年間の斬新なプログラムを有する魅力的なコースです。本年度を準備期間とし、年次進行的に進め7年間のプログラムで、本学の学生、社会人学生の参加を待っています。

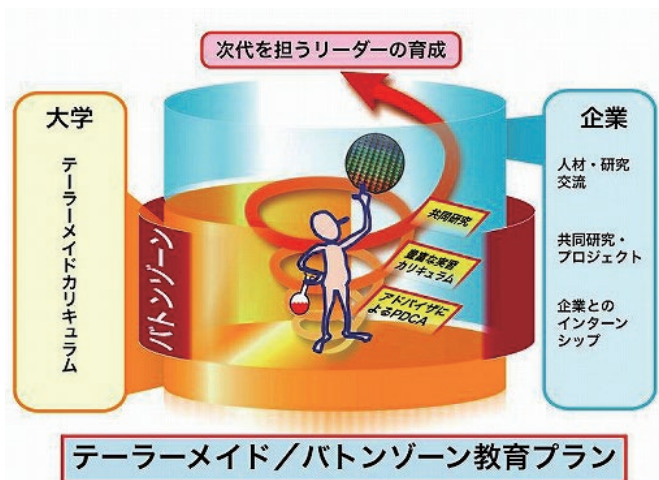


テーラーメイド: 図1

【必要性・目標】

実践的・創造的能力を備えイノベーションを推進できるリーダー的人材がグローバルな競争力の源泉となります。21世紀のイノベーション社会(産業界)が求めるこのような人材の輩出には、先端技術を活用したモノ作り教育研究を中核とした教育システムの導入が不可欠です。しかしながら、日本の社会では博士課程の学生の評価が低く、諸外国と全く異なっています。マスメディアなどで博士課程学生の就職困難なことがクローズアップされ、また企業のトップからの評価は低くなっています。(少なくとも、本学はそうではないのですが)このような評価状況を変え、真に社会が求める博士課程学生を育成し、日本、あるいは世界のリーダーとなる博士課程学生育成教育システムの構築を目指しています。これは、現在進行中のグローバル COE の人材育成の趣旨と同じですので、この成果(カリキュラム等)を活用しながら、全学的に進め、「豊橋モデル」となるように考えています。

本学のみが有する IT 先端技術やナノテクノロジーを使った先端モノ作り教育研究施設(「TUT-LSI 工場」)と開学以来蓄積してきた優れた教育研究成果を活用し、社会が求める異分野融合領域でフロントランナーとして活躍できる実践的・創造的能力を備えた人材を輩出するテーラーメイド・バトンゾーン型教育改革システムを構築します(図3)。



テーラーメイド: 図2

育成目標

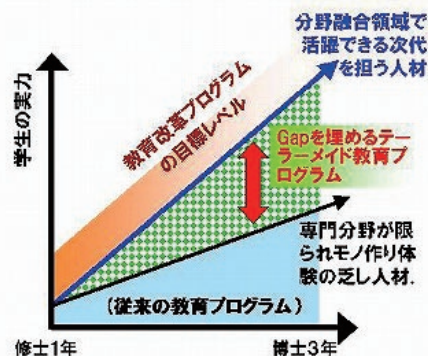


図3